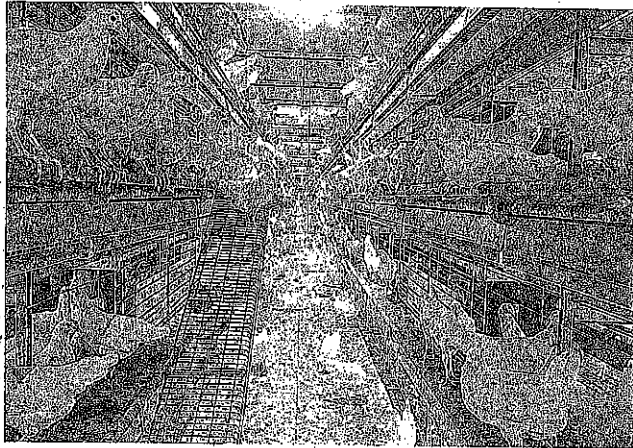


フュージョン(都城) JGAP取得

鶏卵生産・販売のフュージョン(都城市、赤木八寿夫社長)は、運営する5農場で生産工程での安全性確保などを示す規格「JGAP(ジエイギャップ)」の認証を取得した。採卵養鶏場としては九州で初めて。管理レベルの高さが公的に認められ、赤木社長は「食の安全への信頼性が強化された。取り組みを周知し、持続可能な畜産経営につなげたい」と話す。



JGAP認証を取得したフュージョンの養鶏場の一つで、ケージフリー型を採用している新富農場(同社提供)

農畜産物生産の国内規格

JGAPは日本GAP協会(東京)の認証制度で、2020年東京五輪・パラリンピックの選手村で使われる食材調達の基本に基づく事業活動の一環。認もなっている。農畜産物の生産工程における家畜衛生や環境保全、動物福祉(アニマルウェルフェア)、労働安全などの審査項目があり、採卵鶏の区分ではこのうち約100項目をクリアすることが求められる。

農場や書類の審査は中央畜産会(東京)が18年11、12月に実施し、12月27日付で認定された。5農場はフュージョンの「本社第1、2農場(都城市)」「新富農場(新富町)」、グループ会社の新富エッグシステムの「18農場(同)」、南

九州エッグシステムの「岐ヶ山農場(鹿児島県曾於市)」「末吉農場(同)」。

飼育数は計200万羽。フュージョンは17年に食

赤木社長は「海外は食品衛生への意識が高く、JGAP取得は輸出強化に向けたステップになる。自社のブランド力強化につなげたい」と意欲を語った。

九州エッグシステムの「岐ヶ山農場(鹿児島県曾於市)」「末吉農場(同)」。

飼育数は計200万羽。フュージョンは17年に食

赤木社長は「海外は食品衛生への意識が高く、JGAP取得は輸出強化に向けたステップになる。自社のブランド力強化につなげたい」と意欲を語った。

九州初採卵養鶏場
ブランド力強化へ

(佐藤友彦)